



モスクワ日本人学校

*Japanese School in Moscow*

しらかば

学校だより No17

1月10日

モスクワ日本人学校

校長 岡本 高一

年頭に寄せて

校長 岡本 高一

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ致します。

各ご家庭で、日本へ一時帰国したり、ロシアで年越しをしたりと思ひ思ひの年末年始を過ごされたことと思ひます。児童生徒が元気に本日登校し、2022年をスタートさせることができたことは学校としても何よりも考えております。

2022年が始まりました。今年は何といたっても新型コロナウイルス感染症が収まり、学校の教育活動が以前のようにできることを切に願うばかりです。しかしこればかりは変異株の流行など、世界中が必死に対応している中、まだまだ、先行きが不透明な状況が続くことは仕方が無いと考えています。学校と致しましては、校内での集団感染を防ぎ、児童生徒の健康を最優先しつつも、できることを模索しながら、実行していくことや、何よりも対面授業の継続、児童生徒が通学できる状況の継続を大切な課題として、また重要な役割として担って行きたいと思ひています。

昨年2学期末で150日の学校授業日となりました。3学期も予定通り授業ができますと、192日の授業日となり、国内とほぼ同じ日数の授業日の確保ができます。授業時数も予定通り確保ができ、各教科の学習指導要領明記の指導内容を終了して、次学年に進級させることができると考えています。本年も保護者の皆様には、本校の教育活動をご理解頂き、ご協力頂きますことをお願ひ致します。

さて、寅年を迎えています。中国伝来の十二支は、もともと植物が循環する様子を表しており、その年の特徴につながるといわれています。寅は十二支の3番目で、子年に新しい命が種の中で芽生えはじめ、丑年には種の中で育つがまだ伸びることができない。寅年は春が来て根や茎が生じて成長する時期、草木が伸び始める状態だとされています。従って寅年の年柄は「人の前に立つ」そこから「延ばす・成長する」という意味をもつと言われ、この2つを組合せ「新しく立ち上がること」「生まれたものが成長すること」といった縁起の良さを表しているそうです。モスクワ日本人学校もぜひこの年柄にあやかり、コロナ禍ではありますが、児童生徒が成長するための教育活動を進めて行きたいと考えています。

1月は行く、2月は逃げる、3月は去ると言われているように、3学期はあっという間に過ぎて行きます。学校の3学期はまとめの時期であると同時に、4月から始まる令和4年度の準備の学期でもあります。まとめを行うと共に、新年度の準備をしっかりと進めて参ります。繰り返しになりますが、保護者の皆様のご協力をよろしくお願ひ致します。